

『あんげろす』に見るキリスト教研究所とヘボン

丸山義王

『あんげろす』は1992年4月22日に「明治学院大学キリスト教研究所ニュースレター」として創刊され、本号で通算第50号となり、17年のあゆみが続けることになる。創刊号の表紙には「『アンゲロス』（メッセンジャー、天使）とは『エウ・アンゲリオン』（福音）と同根の言葉。われわれの『あんげろす』が多くの方々の参加を得て豊かなメッセージを伝えるものとなるよう期待したい」（加山久夫）とある。題字は渋谷浩氏の揮毫であった。この『アンゲロス』の創刊は、この時新所長として就任した中山弘正先生の創意によるものであり、渋谷浩前所長は、「『あんげろす』発刊にあたって」で、「所員相互の理解と共感のためには、僅かしか論文を載せられない『紀要』のほかに、気負い立たないで自分を紹介できる所報がなければならぬ。それは同時に研究所の外に向かって研究所そのものが自己紹介することにもなるだろう」と述べている。

本年2009年10月は、ヘボン夫妻来日150周年に当たるので、ヘボンについて『あんげろす』がどのように取り上げているかを見ることにする。『あんげろす』の特徴は、研究所の活動の歩みと業績の詰まっている宝庫であるので、これからこの扉を開けてみたい。「先日、ふとした偶然から、ふたつの宝物が、二十年近くも放置されて研究所に眠ってい

ることが分かりました。ひとつは、幕末から明治初期にかけての聖書の翻訳、ヘボンらによる辞書、仏教や哲学の側からのキリスト教批判書、当時の長崎などの写真を蒐集した

『九華文庫』でこれは学院創立100年を記念して購入したものだそうです。もうひとつは、ヘボンらが本国のミッションボードなどとやりとりした書簡のコレクションで、おそらく、そのほとんどが未公開資料と思われる。いずれの資料も研究者に公開されれば、日本の近代化や明治初期の日本のキリスト教受容に対して新たな視点を拓くものと思われる」（「研究所雑録」1999年第22号）。この二つの宝物は、2001年10月の所員会議で「図書館の尽力で『九華文庫』の整理が終了し、現在白金図書館7階に保管していることが橋本所長より報告されたが、現在もヘボン関係の貴重図書として保管されている。

約300冊にわたる『九華文庫』は、初期プロテスタントキリスト教資料研究家、前ルーテル神学校教授福山猛教師から1973年に購入したもので、明治5年から6年にかけて出版されたヘボン・ブラウン、奥野昌綱共訳の馬可（マルコ）伝、約翰（ヨハネ）伝、馬太（マタイ）伝から、明治9年のヘボン私訳の羅馬（ローマ）書まで揃っている。さらにヘボンを中心とする旧約聖書翻訳委員会による旧約聖書の分冊も殆ど収集されており、これらが合冊して明治21年以降、聖書協会の邦語新約聖書となる。これ以後のヘボンの記事を

あげる。1995年の第10号の研究所報告(加山久夫所長)では、キリスト教研究所の「ヘボン研究」(責任者久世了所員)の始まりを告げており、第11号では、久世了所員が6月24日に行われた公開講演会の報告「医師としてのヘボン」をされている。

○「ヘボンと共に - 研究所での二年間を振り返って -」

佐々木晃研究員(1998年第18号)、

○「ドクトル・ヘボンで結ばれて」

石川潔協力研究員(2002年第28号)、

○「ヘボン・シンポジウム」

2003年12月20日キリスト教研究所・歴史資料館共催

中島耕二協力研究員(2004年第33号)、

○「ヘボンさん その後」

村上文昭協力研究員(2006年第39号)、

○「日暮れて道遠し」

鈴木進協力研究員・本学非常勤講師(2007年第44号)

鈴木進協力研究員・本学非常勤講師(2008年第45号)

○「ヘボンと出版」

宮坂弥代生協力研究員・本学非常勤講師

最近の記事では、第47号の「明治学院雑記」で播本秀史所員が、150年史編集にふれ、「150周年はヘボン塾の創立1863年を起点するものです。神学校を起点とした学校史と英学塾を起点としたそれでは記述も変化するかもしれません。どのような学校史になるか、どうぞご期待ください」と述べているが、編集には遠藤興一編集委員長をはじめ多くの所員が名を連ねており、150年史の成果が待たれよう。第49号(2009年7月)の「所長就任のご挨拶」で播本所長は「今年度は新たに

明学0Bを対象とした『ヘボン講座』が始まります。キリ研にはさまざまなプロジェクトがあります。ホームページも是非ご覧おきください」と述べているが、この講座は21ヘボンプロジェクトの中で「キリスト教研究所と校友会が連携し、ヘボン等に関するテーマの校友向け講座」として位置づけられている。今後も研究所と共に歩み続けるメッセンジャーとしての『アンゲロス』に期待したい。

(まるやま・ぎおう 協力研究員)

